

# 住用中学校の環境保護活動の取組が 10月2日(金)奄美新聞に紹介されました。

## 外来種の影響と対策学ぶ

環境省、住用中での出前授業



住用中で行われた出前授業。池上温人さんから外来種について学んだ生徒たち

### セイタカアワダチソウ駆除作業も

奄美市立住用中学校(小田敬介校長、児童12人)は18日、学校内外で「環境保護に関する出前授業と外来種駆除作業」を行いました。環境省奄美野生生物保護センター自然保護官補佐の池上温人さんが「環境保護と外来種駆除活動について」をテーマに講話し、奄美における外来種の影響、対策などについて学びました。終了後、学校近くでたくさん生えている外来種のセイタカアワダチソウの駆除作業をしました。

図書室で行われた出前授業で池上さんは「外来種とは、元々その地域にいなかったのに、人の影響で他の地域から入ってきた生物のこと」と話し、外来種が入ってくる結果は①天敵がいらないから数が急増する②元々いた生物たちは、外来種がいる生態系に慣れていない③外来種が、元々いた動物を食べたり、殺したりする④元々いた種の種類と交雑して、雑種ができてしまう」と説明しました。

外来種に関する注意事項(外来種被害予防3原則)は▽「入れない」悪影響を及ぼす可能性のある生物を元々の生息域から、そこではない所へ入れない▽「捨てない」飼つたの、栽培して、

と説明しました。池上さんは、奄美

マングースバスターズの一日の活動や捕

獲方法についても説明し、過去にノネコ



セイタカアワダチソウの駆除作業に汗を流した生徒と教職員

がアマミクロウサギを捕食した衝撃の写真も紹介。会場にアマミクロウサギ、マングースなどの剥製を展示しました。

終了後、石釜トンネルと役勝川の間の旧国道沿いに移動し、生徒と教職員約20人はセイタカアワダチソウの駆除作業に汗を流しました。

### ふてけてけぽねぽね

なるべく水筒を持ち歩くようにしています。理由は①ペットボトルごみを減らすため②自作の飲み物の味が好みだから③節約のためなどで

## コロナの閉塞感吹き飛ばせ!

金大中三義山で元氣こ本育大会

防止のため、規模縮小・入場制限を行い実施。生徒らは快晴の青空のもと青・黄・赤の3団にわかれ

大会は、同校グラウンドが改修工事のため同競技場で開催。コロナ禍の中、例年よりプログラム

外来植物の駆除方法には葉、茎、根を残さないように抜き取るの種子が散らばるのを防ぐために、種子がつく前には抜き取る③抜き取った植物は袋に密閉し、乾燥させて処分する



セイタカアワダチソウの駆除作業に汗を流した生徒と教職員

重田晴くん(3年)は「昨年に続き2回目の駆除作業。今回は量が多く、やり残した所があった。指先が痛くなった」と話し、潤井あいさん(2年)は講話は資料があり、分かりやすかった。駆

除作業は量が多く大変だったが、生徒は「ちくちく作業し、団結力があつたと思う」と感想を話しました。帰りには、国道沿いのごみを拾いました。

